

シンナガサキミーティング開催レポート

i n 大浦小学校区



令和5年6月24日（土）、自治会や育成協、消防団、青年会、まちづくり団体など15人の皆さんにお集まりいただき、大浦小学校区の「シンナガサキミーティング」を開催しました。

最初の自己紹介では、居留地まつりやクリスマスイルミネーションなど地域の特色ある活動や、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。

いただいた意見

①消防団の活動について

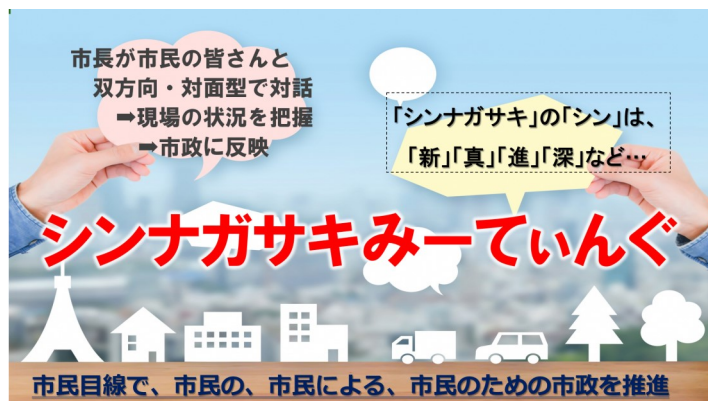
消防団の活動について、出動体制や近隣の分団との連携、活動区域の見直しができないか。また、地域の安全を守るため、消防団の加入促進も進めてほしい。

市の考え方・回答

出動については、原則、2人以上で従事することとしていますが、状況に応じては機関員のみのお出動も想定されますので、分団長等が判断できるものと考えています。出動体制については、応援体制の強化などとして他の分団の管轄区域や長与町、時津町などにおいても、隣接分団から出動できるようにしております。

活動区域については、分団からの申し出がある場合、協議を行いながら統廃合を行っており、地域防災力の維持に取り組んでいます。また、分団の統合とは異なりますが、分団は統合しないまでも、詰め所を複数の分団や部で合築するなどすでに取り組んでおりますのでご相談ください。

加入促進については、市外居住者の入団緩和、報酬金額の改正、支給範囲の拡大、報酬等の直接支給導入など、消防団の処遇を見直すとともに、消防団協力事業所の登録拡大や周知啓発を行い、消防団の活動しやすい環境づくりに取り組んでいます。また、団員募集のチラシをはじめ、消防団PR動画や分団を紹介するリーフレットを作成し、SNSなど広報媒体も活用しながら広報活動を行っています。



②斜面を利用した独自の消火装置について

山上からの水圧を利用した斜面独特の消火装置を設けることで、消火活動が軽減できないか。

市の考え方・回答

本市では、ご意見の仕組みと同様の、高台地からの配水圧を利用した常時放水に必要な水圧がある消火栓を斜面地や車が入らない場所に設置しています。

火災対策として、消防隊による現地訓練や地域での防火防災訓練を行うほか、消防団や住民によって初期消火活動ができるように軽量の消防ホース等を格納した初期消火用具を斜面地域に設置し、火災に備えています。【初期消火用具】



③まちなこ不妊化推進事業について

今は申請期間が5月だけなので、年間を通して申請を受け付けられるようにできないか。

市の考え方・回答

本事業の助成対象者の決定については、毎年、予定数を大幅に超える申し込みをいただいているため、多くの自治体で行っている先着順による交付決定方式を採用することができません。限られた助成枠の中で猫の繁殖抑制による効果を高めるために抽選ではなく、野良猫の多く生息する地域・苦情の多い地域を優先的に選定し、現地調査を行ったうえで助成対象者を選考しております。

また、不妊化手術を実施する動物病院に限りがあることから、助成決定した全頭の猫の手術を実施していただくため、手術期間を助成決定後から翌年1月までとしております。

本事業において、選考による審査など一定の事務処理期間を必要とすることから、ご提案いただいた年間を通じた申請受付、審査は難しいものと考えております。

そのほか、「眺めが良く、海が見える大浦地区の斜面地は大きな魅力。それを活かしたまちづくりをしていきたい」、「学校と地域が一体となっており、子どもたちがまちを知ろうという姿勢はものすごく強い」、「マンション建設などは景観に配慮してほしい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。

鈴木市長のひと言

初めての開催となりましたが、老若男女、バラエティに富んだ顔ぶれが揃い、まちづくりなどについて活発な意見交換ができました。

地域の皆さんが「自分たちのまちは自分たちでつくっていこう」とする行動が、その地域の暮らしやすさにつながっていると感じました。



参加者からの感想

地域の熱い思いを再確認できる良い機会だった。

他団体の意見を聴くことができ、地域の問題点も知ることができた。

市長と近い距離で話が聞けてよかった。

仲間、先輩に恵まれ、「これからの大浦地区には、明るい未来しかない！」と感じた。

